

教育情報コーナーからのお知らせ

10月

ようやく過ごしやすい日々が戻ってきました。2学期も始まってもう1カ月がすぎ、学校生活も軌道に乗り、校内は子どもたちの賑やかな声でいっぱいでしょうか。雑誌『児童心理』にこんな記事が掲載されていました。峰松修(九州大学教授)さんの「長所を見つけるコツ」から紹介します。子どもたちを見る目も少し変わりますね

長所を見いだす工夫のためのいくつかの手がかり

- (1) さわらぬ短所に祟りなし
- (2) 短所がわからないから変わらないのではなく、今は変えてはいないから変わらない。
- (3) すでにある長所(あるいはできていること)を伸ばすと他の長所もおのずと生きてくる。
- (4) 短所を笑って話し合えるときには、その短所の害からまぬがれかかっている。
- (5) 短所を修正して長所になるわけではない。短所をその人なりのものとするから長所になる。
- (6) 親戚や親しい人がこの子をどう褒めているかを考えると、それがその子の長所であろう。
- (7) 楽しんでいる人は案外短所が自由にだせるときに楽しめている。
- (8) 一緒に笑える話をしているときにその人の長所は見つかりやすい。
- (9) 人が生き生きと実感を語るときに、「短所」とよばれるものも長所化しやすくなる。
- (10) 長所はできるだけ長く話題にし、短所はできるだけ短く話題にする。

長所・短所を認めたくて「どうなりたいか」「どうなったらうれしいか」などをよく聴いていくことが大切である。また、何が楽しいか、何が面白いかを生活の中から聞き出すことは、その子のよさを発見する手だてとなることが少なくない。

世間・親・先生の見る長所・短所と本人が感じているものとは、差があることがよくある。本人の実感がまず大切であり、そこを受け入れていくことで、その子らしい長所・短所の生かし方を考えていってもらうことも大切であろう。本人があれやこれや工夫することをあたたかく見守ることも長所探しのコツであろう。

わたしたちはどうも、短所のみ発見したり、問題を見つけることに躍起になったりしがちですね。文中にもありましたが、「短所がありながらも」日常生活にそれほど害をおよぼさないように慣らしていくようにしたらいいのかもしれないね。